

はじめに

令和6年度がスタートしました。各学校におかれては、新たな教職員、希望や期待にあふれた新入生や、進級を機会に新たな目標を設定し、意欲にあふれた子ども達を目の前にして、気持ちも新たに充実した教育活動が展開されていることと思います。

社会全体を見渡しても、今年のゴールデンウィークは、各地でコロナ禍以前の人流がみられ、当たり前の日常が戻ってきています。

学校教育においては、同様に各種の行事等を含めて、「継」としてこれまでの流れを繋げていくこともあれば、「改」として新たな視点で教育活動を推進していくこと、その取り組みに「挑」として、果敢にチャレンジしていくこと等が求められていくのではないかと思います。

ちなみにこの「継」・「改」・「挑」は、四万十市教育研究所の本年度のキーワードとしています。

さて、四万十市教育研究会の活動内容は、昨年度から従来のサークルⅠ（教科研修）の活動に替わって、「授業づくり講座」等への計画的且つ積極的参加に移行し、さらなる授業改善に取り組んできました。

あわせて、本年度からは、指定研究を受けている市内の小中学校の研究発表会、また、各研究団体が開催する研修会等が、四万十市内の小中学校を会場として開催される場合に限定されていた枠組みを解消し、西部教育事務所管内にも拡大し、より積極的に研修会に参加できる体制づくりに取り組むこととしました。

さらに、「教科外・領域（14）」「その他の研究会・部会（10）」においても、それぞれに独自性を発揮し、自主的・主体的に研修会等を設定して、会員自ら研鑽に努める意識化を図ることとしました。

さて、四万十市教育研究所（含ふれあい学級）は、所長以下、研究員2名、不登校指導員4名、事務職員1名、SC（スクールカウンセラー）1名、SSW（スクールソーシャルワーカー）2名、学校配置のSSW3名を加えて、総勢14名の職員体制でスタートしています。本年度もオール四万十の一員としてお役に立てるよう力を合わせて取り組んで参りたいと思います。どうぞご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

四万十市教育研究所